

# 1 中南型産直モデルの確立と産直間の連携強化による地産地消の推進

～産直施設が抱える課題解決で、認知度・販売額向上により地産地消を推進する～

## 【概要】

産地直売施設協議会を設置し、連携体制を強化した上で、地域特性を生かした新たな産直施設モデルの実証と産直施設が連携したPR活動の実施により、地域の活性化と地産地消を推進した。

## 【背景・課題】

- 管内産直施設では、約7割が65歳以上で、運転が困難や袋詰めに手が回らないなどの増加により出荷量が減少していることから、新たな体制が必要となっている。
- 管内には産直施設の協議会組織がないため連携が希薄であり、共通課題に連携して対応する組織が必要である。

## 【普及指導活動の内容】

- 18産直施設と農協、市町村等で組織する協議会を設置し連携体制の強化を図った。
- 障がい者がキャベツ等9種の野菜の袋詰めやテープ巻きを行い、産直施設の「農福連携コーナー」で販売した。（農福連携モデル実証）
- 産直施設が連携したPR活動スタンプラリー、産直マップの配付、地域FM放送による産直レポート等を実施した。

## 【成果】

- 農福連携モデルの実証
  - 障がい者の仕事は丁寧で、きれいに袋詰めされた野菜は、よく売れた。作業速度は、慣れるにしたがい格段に向上した。
- 産直施設が連携したPR活動
  - FMラジオを聞いて来店するお客もあり、放送の効果が見られた。
  - 行ったことのない産直へ行くきっかけとなったとの声が多かった。

## 【対象名】

管内18産直施設



福祉事業所の袋詰め作業の様子



作成した産直マップ



スタンプラリー景品  
(買い物バック)

## 2 需要に応える「青天の霹靂」の生産と新品種の普及拡大 ～「青天の霹靂」の作付面積拡大と、新品種の本格デビューに向けて～

### 【概要】

- 青森県産のブランド品種「青天の霹靂」の良食味・高品質生産の支援と面積拡大により、需要に見合った供給量の確保を図った。
- 新品種「はれわたり」の普及拡大に向けて、品種特性の把握と生産者への周知を図った。

### 【背景・課題】

- 「青天の霹靂」は、県産のブランド米として実需者や消費者から高い評価を得ているが、需要に見合った供給量が確保されていない。また、令和2年産は、出荷基準達成率が平成30年産並の低い水準となった。
- 令和5年から本格作付が予定される新品種「はれわたり」は、品種特性の把握と生産者への周知が必要である。

### 【普及指導活動の内容】

- 「青天の霹靂作付拡大運動」（6～9月）として経営面でのメリットを強調したチラシを配布し、啓発した。
- 中南地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチームでは、連絡会議の開催、生育観測ほの設置、生産情報の提供、現地講習会の開催により、関係機関や生産者と情報共有を図った。
- 令和2年産の出荷基準未達成者に、適切な肥培管理について、生産情報の提供と個別巡回を行った。また、「青天ナビ」を活用した作付ほ場の確認、適期刈取りを指導した。
- 試作ほ等を設置・調査し、県をはじめとした関係機関や担当農家とデータを共有した。

### 【成果】

- 「青天の霹靂」の経済的な有利性が浸透してきたことから、令和4年産の作付見込み面積は1,410haで、令和3年産より199ha増加した。
- 出荷基準達成率は99.6%で、昨年（92.0%）を上回った。
- 「はれわたり」については、栽培しやすく胴割れが発生しにくい特性が確認でき、担当農家や関係機関と情報共有が図られた。

### 【対象名】

- 中南管内「青天の霹靂」作付経営体（350経営体）
- 新品種作付意向農家（3名）



第1回連絡会議（4/30）



田植の様子（5/15）



適期追肥講習会（7/5）

### 3 りんご黒星病被害防止に向けた総合防除対策の推進 ～落葉収集等の耕種的防除と効果的な薬剤散布の方法の実証～

#### 【概要】

りんごの総合防除対策の普及を図るため、講習会等に加え、省力的な落葉収集方法の実演・展示や効果的な薬剤散布方法の実演会により普及を図った。

#### 【背景・課題】

- 重要病害である黒星病の被害軽減のためには、総合的な防除対策が必要である。
- 特に、落葉収集機による省力的な越冬落葉の収集や散布ムラが少ない薬剤散布方法を早期に普及する必要がある。

#### 【普及指導活動の内容】

- 落葉収集機による省力的な落葉処理の展示ほを弘前市黒滝に設置し、落葉処理作業を実演会で公開して落葉収集処理を啓発した。
- 効果的な薬剤散布方法の実演・検討会を開催し、散布ムラが発生しやすい場所を確認し、散布ムラの改善策を検討して技術の向上を図った。
- 講習会や生産情報及び地域FM放送での情報発信により適期防除等の総合防除対策の普及を図った。

#### 【成果】

- 実証試験や実演会、講習会等の普及活動により総合防除対策について取組が拡大し、本年10月時点での黒星病被害果率は0%と発生を抑えこむことができた。
- なお、落葉収集機は令和4年3月から販売開始されている。

#### 【対象名】

管内7りんご共防連（318共防）



省力的な落葉収集実演会



効果的な薬剤散布方法実演会



黒星病総合防除対策の講習会

## 4 中南地域の果樹経営に適した特産果樹の生産拡大

～シャインマスカット・ジュノハートの高品質果実生産の推進～

### 【概要】

関係機関・団体と連携して、ぶどう「シャインマスカット」及びおうとう「ジュノハート」の基本的生産技術の習得等に向けた支援を行い、高品質果実の安定生産を図った。

### 【背景・課題】

- 近年、シャインマスカットの新規作付者が増加しているため、無核処理や花穂の整形等の基本技術の普及が急務である。
- ジュノハートは県がブランド化を進めているため、県のブランド化推進協議会が設定した品質基準や出荷規格を周知徹底し、高品質大玉生産を推進する必要がある。

### 【普及指導活動の内容】

- 落葉収集機による省力的な落葉処理の展示ほを弘前市黒滝に設置し、落葉処理作業を実演会で公開して落葉収集処理を啓発した。
- 効果的な薬剤散布方法の実演・検討会を開催し、散布ムラが発生しやすい場所を確認し、散布ムラの改善策を検討して技術の向上を図った。
- 講習会や生産情報及び地域FM放送での情報発信により適期防除等の総合防除対策の普及を図った。

### 【成果】

- シャインマスカットは、未開花現象の発生面積が増加せず、発生園では対応策を実施したことにより、出荷量は前年の16.3トンから29.5トンに増加した。
- ジュノハートは、管内の登録生産者ら4名が出荷した（出荷量：約48kg）。また、出荷者のうち1名が上位等級品である「青森ハートビート」を産地市場に出荷した。

### 【対象名】

弘果シャインマスカット作付者(95名)、JAぶどう生産者協議会(中南地区100名)、おうとう「ジュノハート」ブランド化推進協議会登録生産者(17名)



講習会風景（シャインマスカット）



「ジュノハート」着果状況

## 5 ハウスを有効活用した中南地域農業労働力補完モデルの育成 ～若手農業者と集落営農組織とのWin-Winな関係構築を目指して～

### 【概要】

集落営農組織が所有する夏期遊休ハウスを若手農業者が活用し初期投資の軽減を図るとともに、若手農業者が集落営農組織へ労働力を提供し労働力を補完するモデルの創出に取り組んだ。

### 【背景・課題】

- 管内では、労働力不足により営農に支障をきたしている集落営農組織が増加している。
- 一方、施設栽培に取り組む若手農業者は、多大な初期投資が経営安定の障害となっている。

### 【普及指導活動の内容】

- 集落営農組織（54組織）と若手農業者（77名）を対象に実施した営農状況や夏期遊休ハウスの貸借に関する意向調査結果を基にマッチングを行い、貸付条件等話し合いを行う場を設定した。
- 施設栽培に取り組む若手農業者の初期投資軽減を図るため、パイプハウスの建て方に関する資料提供等での意識啓発を図ったほか、パイプハウス自力施工の研修会を開催した。

### 【成果】

- マッチングの実施に当たっては、新規就農者の営農拠点からの移動距離及び作物品目に加えて、ハウスの設置環境（ハウスの間口、土壌（特に、水はけ状況）、水源（井戸水））を事前に確認する必要があることが分かった。
- 若手農業者3名が集落営農組織のハウスを利用して、弘前市（ピーマン）及び平川市（パクチー、ミニトマト）で野菜生産に取り組む一方、ハウスのビニール被覆作業や水稻育苗箱運搬・設置、ハウス周りの除草などの集落営農組織の作業を手伝った。
- パイプハウスの自力施工に取り組む若手農業者が新たに7名増加し、19名となった。

### 【対象名】

- 管内集落営農組織（54組織）
- 野菜栽培に取り組む若手
- 農業者（77名）



若手農業者による労働力の提供



パイプハウス建て方研修会の様子

## 6 多様な農業・地域活動にチャレンジする女性農業者の育成 ～地域活性化に向けた女性農業者の新たな取組への支援～

### 【概要】

地域の活性化を図るため、女性起業家等を対象にセミナーを開催したほか、「農のふれカフェ」実践者を対象に、個別指導や情報交換会を行った。また、女性起業家の地域共生社会の実現に向けた地域活動を支援した。

### 【背景・課題】

- 加工や消費者交流活動に取り組む女性起業家は、経営発展に向けた新たなサービスや商品開発、活動のPR等による起業活動の強化が課題となっている。
- 女性起業家の高齢化による後継者育成や、若手農業者等の起業開始に向けた支援が必要である。

### 【普及指導活動の内容】

- 女性起業家や起業に関心のある女性農業者等を対象に、優良事例や衛生管理手法を学ぶセミナーを開催した。
- 「農のふれカフェ」実践者に対し、カフェ会議（情報交換会）の開催や個別指導により、体験メニューづくり等を支援した。
- 地域課題に応じた活動を行う女性起業家に対して、活動プランの作成や新たな取組に対する支援を行った。

### 【成果】

- 「農のふれカフェ」実践者が1名増えた。また、1名が新しい体験メニューの提供を開始した。
- 女性農業者3名が、地域資源を活用した加工や収穫体験の受入れを開始した。
- 地域共生社会の実現に向け、女性起業家1名がコンビニエンスストアと連携した出張販売や、昨年度整備した交流スペースを活用した体験イベントを開催した。

### 【対象名】

- 女性起業家（53名・組織）
- 起業活動に関心のある女性農業者（20名）
- 「農のふれカフェ」実践者（10名）



コンビニエンスストアと連携した出張販売



漁家レストランの運営と地域活動について研修

## 7 共助・共存の農山漁村づくりに向けた地域経営体の育成 ～農業を核とした西目屋村活性化プランの作成支援～

### 【概要】

西目屋村全域の農業を担う農事組合法人にしめやが地域の課題を解決し、地域の農業を支えることに加えて、地域共生社会を支える経営体として成長するよう、中間支援組織と連携して、地域活性化プランの作成を支援した。

### 【背景・課題】

法人が農業を核とした地域課題解決を実践し、県内のモデル的な組織となるよう、中間支援組織等の伴走支援により、課題を掘り起こし・課題解決に向けた活性化プランの作成・実現を支援する必要がある。

### 【普及指導活動の内容】

- 法人を伴走支援する中間組織を株式会社まちなかキャンパスとした。
- 中間支援組織が意見交換の場を設定し、法人役員や村からの意見の聞き取りに同席した。
- 法人役員が「子や孫のために村を存続させたい」という発言に同調する声を踏まえ、活性化プランのテーマを「子や孫のため」とした。
- 中間支援組織に同行し、農外のキーパーソンからの意見聴取を行った。
- 新型コロナウイルス感染症で十分な話し合いができなかったため、農業と農外、農業と若い世代の話し合いを引き続き行い、農業から解決できる課題を探ることとした。

### 【成果】

- 農業を核とした「地域活性化プラン」の原案が作成された。
- 活性化プランのブラッシュアップとともにその実現に向けた支援を次年度に取り組む

### 【対象名】

農事組合法人にしめや（117戸）



中間支援組織と（農）にしめや役員等との意見交換会(12/18)



中間支援組織へ法人の車庫・ソバ選別所を案内